

木津川上流におけるコクチバスの生息状況について
国土交通省 近畿地方整備局 木津川上流河川事務所 調査課 佐治有基

コクチバスについて

コクチバスとは北アメリカ大陸原産の肉食性淡水魚であり、魚類や水生昆虫、甲殻類などを捕食するため、在来生物の生態系に大きな悪影響が懸念されており、特定外来生物に指定されている。性成熟後は毎年産卵し、繁殖期に複数回産卵し、雄親が卵と仔稚魚を保護するため、非常に高い繁殖力を有する。

2022 年度のコクチバス調査について

2022 年現在においてもコクチバスが増加しているのか目視調査および環境 DNA 調査を行い評価した。さらに、効率的な調査を実施するための新たな手法として、ドローンによる産卵床確認の有効性を検証した。



産卵床を保護するコクチバス



ドローン空撮で確認された産卵床

調査結果と考察

目視調査の結果、木津川・服部川合流部付近と宇陀川の赤目口橋付近で産卵床が高密度で確認され、コクチバスの主要な繁殖地（ホットスポット）となっていることが考えられる。また、ドローン空撮による目視調査では、河川の濁りが少ない状態であれば有効であり、飛行高度 10m を基本として、濁りに応じて高度を変えることで産卵床の確認が可能であることが確認された。環境 DNA 調査では木津川上流域の一部河川の上流部を除いた全域でコクチバスの DNA が確認され、広域に分布している可能性が示唆された。

課題と今後の展開

個体数増加や分布拡大の抑制、他河川への侵入の抑制などの対策を行う必要がある。そのためには河川管理者のみならず、広域連携、地域連携による取り組みが必要と考えている。また、効果的・効率的で簡易な調査手法・駆除手法の確立が求められる。



産卵床の破壊の様子